

バスケの会代表

原 昌人さん(新沢木)

雄武のチームを作りたい



↑バスケの会メンバーと(写真右が原さん)

クローズ
アップ
まちのひと

毎週スポーツセンターで活動しているバスケの会。15年ほど前に結成された会の現在の代表を務めるのが原昌人さん(30歳)。原さんがバスケを始めたのは高校生の時。「紋別の高校に進学して、そこにバスケ部があったので入ったんですけど、実はバスケットボールにそれほど興味があったわけではないんですよ。高校を卒業して専門学校に行っていたから、『バスケやるけどいっしょにやらないか』と仲間を誘われて。その時にま

たバスケをやろうになりました。気が付けば高校生のときよりもまじめにやってみてたね」と振り返る。社会人になってからも友人と結成したチームやアマチュアのチームに所属。バスケットボール中心の生活を続けてきたが、2年前、実家の仕事を継ぐため雄武に戻ってきた。

「去年、農家の後輩とメモリアル広場にバスケットのゴールを見つけて、バスケをやるかみたいな話になったんです。最後に目標を「できれば純粋に雄武のチームを作りたい」という思いがあります。よそのチームの穴うめとかではなく雄武というチームでやりたい。このバスケの会をいつかそんな形にしたいので、そのためにはもっと人数を集めたいです。雄武町民で構成されたチームで大会に出ることができれば、町のPRにもつながるのになって思いますし。町民の方にも若い人たちはこんな活動をしているんだって思ってもらえたらいいですよ」と話してくれた。バスケの会は毎週木曜日の19時〜22時に活動中。興味のある方はぜひ見学を。

幼いころからあこがれた消防士

まつしま ひろかず
紋別地区消防組合消防署雄武支署勤務 **松嶋 大和** さん



昨年の5月から消防署雄武支署に勤務している松嶋大和さん(22歳)。雄武高等学校を卒業後、消防士を目指し恵庭市の専門学校に進学。消防士を目指したきっかけについて「消防車を見つけると自然と目で追ってしまうくらい幼いころから消防士にはあこがれを持っていました。高校生になってこれからの進路を考えた時、小学生からずっと続けていた野球では町民の方々にいろいろな面で数多く助けていただいたので、自分の夢でもあった消防士になり、地元で働くことで今度は皆さんの力になりたいと思っただけです」と振り返る。

昨年の10月からは江別市の消防学校に入校。現在も消火栓・消防車の構造などを学び、消火・救助方法を訓練を積んでいる。「仕事はたくさん覚えることが多く大変ですが、先輩方から優しく教えていただいているので、楽しく仕事に取り組んでいます。消防学校から帰署した際には火災、救急の即戦力になることと、救急救命講習会などでわかりやすく伝えることができると力強く話してくれた。

◆好きな女性のタイプ
料理が好きな人

◆特技
野球

小さな美術館

雄武小学校



中村伸平くん(4年)



↑「ぼくはさつまいもがすき」



斉藤綾菜さん(4年)



↑「あま〜いなし」



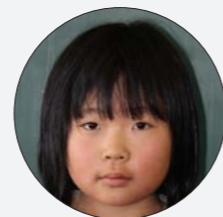
↑「スカイダイビングしているオイラ」



嶋村祥くん(3年)



↑「ねているわたし」



永井梨湖さん(3年)

わんぱくキッズ



はやし
みゆうちゃん



よした
ともきくん



にしむら
たまみちゃん

なかよしおやこきょうしつ
～ 子育て支援センター ～